



立教未来計画

人と世界と未来のために、立教ができること。

図書館閲覧席の背面には、「立教未来計画」募金にご寄付いただいた方の芳名プレートを設置しています。

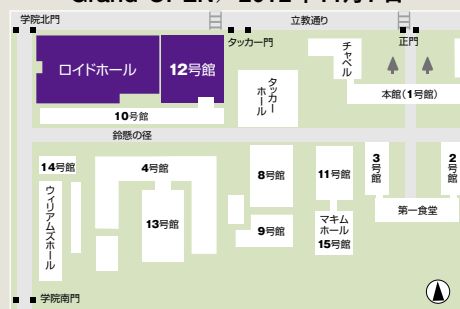


立教大学

■池袋図書館

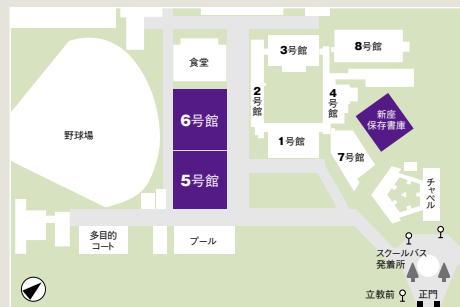
Pre-OPEN / 2012年9月22日

Grand-OPEN / 2012年11月7日



■新座図書館

Renewal-OPEN / 2012年4月4日



伝統と革新の新図書館 誕生



OPEN
立教大学池袋図書館

- 巻頭言（立教大学総長）……03
- 情報リテラシー教育と図書館……04
- 池袋図書館……06
 - 各フロア平面図
- 新座図書館……09
 - 2Fフロア平面図
- 図書館の〈場〉を使う……10
 - ICT 環境
 - グループ学習室
 - 講習会室
 - ラーニング・スクウェア
 - リフレッシュルーム、テラス
- 図書館の〈サービス〉を使う……12
 - 授業内情報検索講習会
 - ラーニングアドバイザー
 - 図書館活用講座
 - レファレンスサービス
 - PC 貸出・PC ヘルプサービス
- 立教大学図書館の歴史……14

大学図書館の未来に向けて

立教大学総長——吉岡知哉



立教大学の池袋キャンパスに新しい図書館が誕生することを、大きな喜びをもってお知らせします。言うまでもなく図書館は、実質的にも象徴的にも、大学という知性の府の根幹をなす存在です。本誌の紹介にある通り、この図書館は大学図書館に現時点で求められている諸機能だけでなく、書物と知をめぐる状況と利用する人々の多様な必要に応じて変化しうるさまざまな仕組みを持っています。

書物が読まれることによって生き続けるように、図書館は利用されることによって成長し進化する生命体です。図書館に生命の息吹を与えるのは利用者の皆さんにほかなりません。多くの人々が新しく誕生した池袋図書館を存分に利用し、未来に向けてその可能性を開いていくことを心から望んでいます。

変化する 学びのカタチ

図書館での学習スタイルは従来、図書や雑誌を利用した個人学習が一般的でしたが、近年、その形態は大きく変化しています。そのひとつが、個人学習とともに複数のメンバーによるディスカッションや共同作業が重視されるようになったことです。授業中でのグループ発表が多くなっていることも、学習スタイルを変化させた要因のひとつです。また、学生がノート型PCを携帯する割合も増加しており、いつでもどこでもPCを使用できる図書館環境が求められています。

進化する 図書館

図書館での学習スタイルの変化に伴い、立教大学図書館では閲覧サービスだけでなく、データベース講習やレポート・論文作成を支援するライティングサポート、PCヘルプサービスなどの学習支援にも重点を置くようになりました。グループ学習の増加に伴い、学生同士が情報を共有したり、気軽に意見交換のできる〈場〉や、グループ学習室のニーズも高まっています。図書館での情報収集も、紙媒体からコンピュータ



を活用した電子情報まで多様化しており、コンピュータ機器の貸し出しや無線LAN環境の整備なども必須です。このような機能の充実により、図書館に長時間とどまる「滞在型」の利用が、今後さらに進んでいくと考えています。

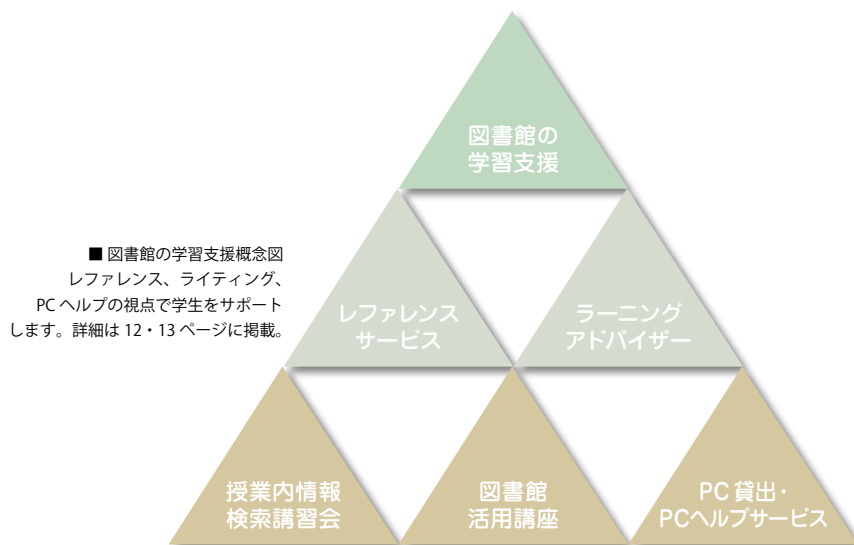
図書館が 学習を支援する

図書館利用を価値あるものにするため、立教大学図書館では、特に学生への学習支援に力を注いでいます。各学部の基礎演習などの授業で

は、1コマを利用して、図書館の基本的な使い方から、各分野のデータベース利用法まで、コンピュータ実習を交えた講習を行っており、年間100コマ、延べ3,000名の学生が受講しています。さらに、大学院博士課程後期課程の学生が「ラーニングアドバイザー」として、図書館における学習、レポート・論文作成のアドバイスを行っています。「ラーニングアドバイザー」は質問及び相談を受けた内容、回答に至るプロセスを記録しており、それらは本学独自の図書館学習支援ノウハウとして蓄積されています。

図書館が 学習環境を整備する

図書館では、利用者のユーザビリティに配慮し、館内での無線LAN利用を推進してきました。デスクトップ型PCの設置だけでなく、メディアセンターとの協働によるノート型PCの貸し出しサービスも行っています。サービスカウンターではPCヘルプサービスも実施しています。



■ 池袋キャンパスのすべての図書館は新図書館に統合されます。
写真は上・左から「図書館本館／メディアライブラリー／人文科学系図書館」
下・左から「社会科学系図書館／自然科学系図書館／新座図書館」



誰もが快適に図書館を使う

しょうがいのある利用者が快適に図書館を利用できるよう、施設のバリアフリー化をめざすとともに、図書館スタッフによる人的サポートも充実させます。フラットなエントランスアプローチと各階フロアは段差をなくし、メインとなる導線を全て自動ドア化しています。また、車いすの利用者に配慮した閲覧席（天板の高さを容易に昇降できるデスク）や多目的トイレ（1階はオストメイト対応）を全てのフロアに設置しています。

地球環境へ配慮する

自然エネルギーを積極的に取り入れ、効率良く活用することで省エネルギーを図っています。太陽光による積極的採光、地熱や太陽熱を利用した空調システムの採用、自然換気システムを利用した空調負荷低減、雨水のトイレ洗浄や散水への再利用、照明・空調設備は高効率な機器を採用し、センサーによる自動制御、床吹き空調システムにより、快適かつ省エネな空間を実現します。

災害に備える

ロイドホールは、「建築基準法施行令」で定めた値の1.25倍増の構造設計により、大地震を想定した耐震性能に余裕を持たせています。また、JIS規格に沿った計算では0.1相当が標準といわれる書架の震度係数に対しても、地上階0.6、地下階0.4と大幅に強化し、大地震発生時の安全確保を図っています。

安心して図書館を使う

図書館スタッフが常駐する図書館エントランスに設置された入退館ゲートは、学生証・勤務員証（ICカード）の認証によるゲート開閉が行われますので、関係者以外の立入りが制限されています。その他、図書館スタッフによる定期的な巡回に加え、「安全確認カメラ」を館内の要所要所に設置し、図書館利用者が安心して過ごせるよう安全確保を図ります。



■各フロアのイメージ図

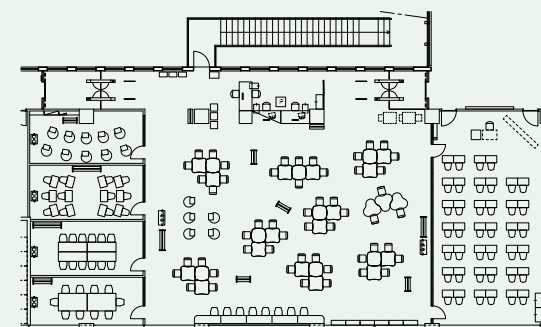
上から、2階の「ラーニング・スクウェア」、1階の図書館エントランス、地下1階の広大な書架エリア。

■最大収蔵可能冊数 100万冊の自動書庫
地下2階に設置され、OPACで指定した資料を指定したフロアのステーションに短時間（3分程度）で搬送できます。

多様な学習スタイルを支援する〈場〉
(仮称)新座図書館 ラーニング・commons

新座図書館は、観光学部・コミュニティ福祉学部・現代心理学部及び各研究科が中心となって利用する学習・研究図書館です。新座キャンパスで展開される学問分野を網羅する蔵書構成となっており、図書約22万冊、雑誌770タイトルを所蔵しています。1階の静粛な閲覧スペースに加えて、2012年4月に2階を新設し、グループ学習のための新たな空間が誕生しました。このスペースには、グループで行うさまざまな学習スタイルに応じた3種類のエリアがあり、大型モニターや電子ホワイトボード等の設置や、「ラーニングアドバイザー」によるサポートなど、ハード・ソフト両面からの学習支援を充実させています。

※(仮称)新座図書館ラーニング・commonsについては、本学学生及び教職員から名称を募り、9月後期授業開始日に正式名称を発表する予定です。



■(仮称)新座図書館ラーニング・commons
写真は上・左から「グループエリア」、「グループ学習室」、「ラーニングアドバイザー」
下・左から「グループエリア」、「グループ学習室」、「多目的スタジオ」利用の様子。



図書館の〈場〉を使う

ICT 環境

ICT 環境を充実させ、図書館内での情報収集と学習・研究を強力にサポートします。図書館内全域（地下2階除く）で無線 LAN の利用が可能です。また、地下1階～地上3階の全てのフロアに PC 席を設け、各フロアのプリンター

から自由に印刷できます。講習会室（50 席×2 室）の PC や貸出ノート PC（200 台）を含めると図書館内では 500 台の PC が利用できることとなります。



ラーニング・スクウェア

図書館エントランス奥の1・2階に展開されるラーニング・スクウェアは無線 LAN 対応。グループワークに適した組み合わせ可能なテーブルや自由に動き回れるキャスター付きチェア、ホワイトボードも完備しています。ラーニング・スクウェア2階では、メディアセンターとの協働による PC

貸出カウンターがあり、ノート型 PC の貸し出しとともに、PC ヘルプサービスを提供します。ゼミ等の仲間が気軽に集まり活発な議論を展開できます。



グループ学習室

近年、図書館のグループ学習スペースへの需要が高まっています。図書館内外で学生が輪になって話をしながら学習を進める光景も、いたるところで見受けられるようになりました。さまざまな閲覧席を用意したグループ学習室8室

（12人用×6室、18人用×2室）を2階に設置し、各室には、ホワイトボードや大型ディスプレイ、PC を用意し、学生のインタラクティブな学びをサポートします。



リフレッシュルーム、テラス

図書館では、利用者の長時間滞在に配慮して、ペットボトル等のキャップ付飲料の持ち込みを認めています。また、飲料の自動販売機を備えたリフレッシュルーム（地下1階）

やテラス（3階）ではサンドイッチ等の軽食をとることもできます。その他、図書館のエントランス脇にはカフェも併設されます。



■掲載のイラストは、池袋図書館の完成予想を元に作成したイメージです。

講習会室

多目的に使える講習会室2室（50 席×2 室）を用意し、授業の1コマを利用した「授業内情報検索講習会」を実施します。また、講習会がない時間帯には、学部が展開する図書館資料を用いた授業の実施や基礎演習などの授業の発表

の場としても利用可能です。その他、個席を移動させて、グループで自由活発な議論をするなど、自在な空間利用ができます。



■図書館本館旧館の雰囲気を残す展示コーナー
地下1階の展示コーナーには、立教に関わる資料を配架するとともに、企画展示も行っています。



図書館の〈サービス〉を使う

授業内情報検索講習会

図書館では、学生の情報リテラシーの向上を目的として、授業・ゼミ単位で、図書館リソースを活用した「授業内情報検索講習会」を開催しています。講習会では、図書館の利用方法をはじめ、立教大学図書館オンライン蔵書目録

(OPAC) や各種データベースを使った図書や雑誌などの文献探索法について指導してい

ます。教員の申し込みにより、授業の1コマを使って実施しています。



ラーニングアドバイザー

本学の大学院学生が、図書館を上手に利用した学習の仕方やレポート・論文作成方法について、テーマの選び方から、資料の探し方、レポート・論文の書き方までアドバイスするサービスを行っています。「レポートや論文の書き方がわからない」、「レポートの情報収集の仕方がわからない」

そのような悩みを持つ学生の質問や相談に対して、ラーニングアドバイザーが自らの学

習・研究経験をもとに図書館の資料を用いながら丁寧にアドバイスします。



図書館活用講座

図書館での図書や雑誌の探し方から、レポート・論文を作成する際の注意点まで全3回にわけて、情報収集のテクニックを段階的に学びます。この講座では、実際に書架まで図書・雑誌・論文を探しに行く演習も行っており、実践力を身に付けることに重点が置かれています。

第1回：本の探し方 (OPACの使い方) 第2回：雑誌記事や論文の探し方 第3回：

各種データベースの使い方 / レポート・論文作成、著作権理解



レファレンスサービス

「調べたいことがあるが調べ方がわからない」、「利用したい資料があるが見つからない」など、利用者からの質問や相談に応じて図書館スタッフが資料の紹介や探し方の案内を行います。「文献複写」や「資料借用」、「学外の図書館利用」といった他大学・他機関

図書館の利用に関する相談にも応じています。図書館の基本的な利用方法も案内します

ので、気軽に声をかけてください。



PC貸出・PCヘルプサービス

学習・研究活動を支援するために、図書館では、学生向けにノート型PCの貸し出しを行っています。窓口にはメディアセンター学生アシスタントを配置し、ノート型PCの貸出・返却業務を行っています。貸出期間は当日内で、図書館の外への持出しも自由です。PCの操作方法などの質

問や困った時はヘルプサービスが受けられます。貸出PCは無線LANにも対応してお

り、ラーニング・スクウェアでも仲間と一緒に利用することができます。



■オンラインサービス

図書館ウェブサイトでは、図書館利用、開館スケジュール、オンライン蔵書目録 (OPAC) をはじめ、オンラインデータベースや学習支援サイト、デジタルライブラリなどさまざまな

コンテンツを用意しています。

他大学の資料の取り寄せや資料の複写の申し込み、図書館への質問もこのウェブサイトから依頼可能です。



立教大学図書館の歴史

1874年	ウィリアムズ主教、築地に聖書と英学を教える私塾を数名の生徒で始める。間もなく立教学校と称する。
1918年	築地から池袋へキャンパスを移転
1919年	図書館本館旧館 開館 メーザーライブラリー (Mather Library) (図書館本館旧館) がサミュエル・リビングストン・メーザー (Samuel Livingston Mather) 氏とその子息からの全面的な資金援助により竣工。
1923年	関東大震災により妻壁上部に亀裂。控え柱の崩落など大きな被害を受ける。
1924年	蔵書数 20,000 冊
1925年	復興改修工事完成 2階上部の解体修理、2階外壁をコンクリート造レンガ外装に、控え柱の内部にコンクリート柱を設置。屋根を切妻から寄せ棟に改修。
1960年	図書館本館新館 開館 丹下健三氏の設計により、中空庭園を配した図書館本館新館 (延床面積 3060.2㎡) が竣工。在学者の10パーセントに見合う閲覧席、また映写室とレコード鑑賞室が設けられた。蔵書数 160,000 冊
1982年	新座保存書庫 開館
1998年	武蔵野新座図書館 開館
2000年	メディアライブラリー 開館
2001年 4月	自然科学系図書館 開館
2001年 10月	社会科学系図書館 開館
2002年 4月	人文科学系図書館 開館
2006年 4月	武蔵野新座図書館を増改築し、新座図書館として Renewal-OPEN
2007年 1月	図書館本館旧館 耐震補強工事 旧館を未来に残すため、内外観意匠の保存を踏まえた耐震補強工事が行われた。
2012年 4月	新座図書館 2階に「(仮称) 新座図書館 ラーニング・commons」OPEN
2012年 8月 31日	▼以降のスケジュールは予定 メディアライブラリー 閉館
2012年 9月 14日	社会科学系図書館 閉館
2012年 9月 21日	自然科学系図書館 閉館
2012年 9月 22日	池袋図書館 Pre-OPEN 地上1階～3階の利用開始
2012年 10月 30日	人文科学系図書館 閉館
2012年 11月 6日	図書館本館 閉館
2012年 11月 7日	池袋図書館 Grand-OPEN



(池袋図書館エントランスに掲げる碑銘)

Γ Ν Ω Θ Ι Σ Ε Α Υ Τ Ο Ν

汝 自身を知れ

このギリシャ語、「グノーティ・セアウトン」は、

古代ギリシャ都市、デルフォイ (Delphoi) のアポロン神殿入口に

刻まれていたとされる。ソクラテスはこの言葉を、自らの無知を自覚しつつ、

なおその魂を高めていくことと捉えた。

立教大学は「キリスト教に基づく人格の陶冶」を建学の精神とし、

世界の進展に寄与できる人間の育成につとめてきた。真理を探究するためには、

自由を尊び、多様な価値観を受けとめなければならないと教えてきた。

そのために、人はひとたび不完全な存在としての自己を認識し、自己の限界に

新たな可能性を見いださなければならない。他者の思惟を追体験し、

過去の叡智に学ばなければならない。

私たちは、図書館がそうした〈知〉の営みを実現する場であることを願い、

ここに碑銘を記す。

立教大学

注) 池袋図書館についての平面図やパース画は計画段階のもので、実際とは異なる場合があります。

企画・発行 立教大学図書館
(新図書館企画・広報 WG)
発行日 2012年7月7日
編集・制作 株式会社 学研教育出版
印刷・製本 立教プリンティングステーション

■池袋キャンパス
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
TEL.03-3985-2628
■新座キャンパス
〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26
TEL.048-471-7119

●池袋図書館 概要
ロイドホール 地下2階～地上3階及び
12号館地下2階～地上1階で構成
延床面積 約 19,000㎡
閲覧席数 1520席
最大収蔵可能冊数 200万冊
設計監理 株式会社 日建設計
施工者 建築工事：清水建設株式会社
電気設備工事：東光電気工事株式会社
機械設備工事：株式会社 大気社
自動書庫工事：株式会社 岡村製作所
電動集密書庫工事：丸善株式会社
固定書架家具工事：丸善株式会社
図書館家具工事：丸善株式会社
サイン/一般備品工事：株式会社 東武百貨店